

G E O T H E R M A

取扱説明書



G E O T H E R M A

< 目次 >

- 安全上の注意点
- 同梱品と仕様
- 製品の特徴
- 組立手順
- 燃焼手順
- 入浴手順
- 消火手順
- 撤収手順
- メンテナンス
- 保管
- アフターサービス

<安全上の注意点>

■警告事項について

本製品を安全に正しくお使いいただき、使用者や他の方への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。次の表示をご理解いただき、記載事項を必ずお守りください。

■危険事項について

危険事項に従わない事により、死亡、重症、または火災を引き起こす可能性があります。

■注意事項について

注意事項に従わない事により、人への危害や物的損害の可能性がります。



掲載されている全ての情報及び写真の無断転載、複写、複製を禁じます。

■危険事項

<本製品全般に関すること>

本製品は、屋外専用の携帯式アウトドアサウナです。特にサウナ目的以外の使用はおやめください。本製品の分解や改造は行わないでください。

周囲への配慮の徹底をお願いいたします。事故や火災が発生しても当社と販売業者は一切の責任をおいしません。火災を防ぐために必ず、消火器や水の準備をお願いします。

<テントについて>

使用中はテントの換気口を常に開放し、新鮮な空気を取り込めるよう注意してください。塞いだままの使用は、ストーブの不完全燃焼を引き起こし、一酸化炭素中毒や燃焼不良による火災等の危険があります。

<ストーブについて>

ストーブのガラス窓を解放したまま使用しないでください。破損等により扉が閉まらない時は、直ちに使用を中止してください。テント内部に煙と一酸化炭素が充満し、極めて危険です。

煙突は全て接続し、破損時は他社製品を流用しないでください。接続部分に焼き付き防止剤などの塗布もお止めください。使用後は必ず煙突内の清掃を行ってください。

■警告事項

<本製品全般に関すること>

本製品に破損や劣化がある場合は、直ちに使用をお止めください。

<テントについて>

使用時は必ずペグとガイロープを用いて地面に固定し、テントやストーブが倒壊する恐れがある場合は使用しないでください。テントの中で煙の臭いを感じたら、テントのドアを開けて換気し、燃焼状況を確認してください。また、組立手順<ストーブ編>を確認してください。

テント内や付近には、ガソリンやプロパンガスなどの可燃性の液体や気体、乾電池やバッテリー、それを使用する器具をテント内に入れないでください。またテント内で衣服を乾かすなど、可燃性のものを放置しないでください。火災や爆発の恐れがあります。

<ストーブについて>

ストーブの周囲は高温になるので、ウッドデッキの上や、野原など草が茂る場所、枯葉が堆積している場所等、使用中に燃えたり溶けたりする危険性がある場所には置かないでください。ストーブ本体付近に置いた道具や薪も高温になるため、延焼にはご注意ください。ストーブ本体から、テント生地は30cm以上離してご使用ください。火災に繋がる恐れがあります。

着火から燃焼が安定するまでは、テント内に煙が漏れる可能性があります。燃焼が安定し、煙の漏れが無くなるまでは、テントのドアを全開放してください。

投入する薪は、太い薪3本ぐらいを目安にしてください。過度な投入は、サウナ室内温度が高温になるほか、ストーブや煙突の破損が生じます。

※ストーブを初めて使う時は、必ず慣らし焚きを行なってください。慣らし焚き時の薪の量は2〜3本が適切です。

初めてストーブを熱した時は、燃焼時の焦げた匂いや薄白色の煙が立ち上がるので、換気してください。

燃焼時に煙突表面が赤くなったり、煙突上部からの火花や炎が噴出する際は、過度な燃料投入と空気供給による過剰燃焼です。火災に繋がる恐れがあります。すぐに燃料の投入調整をしてください。

燃焼中、また消火後も一定時間ストーブ本体だけでなく、煙突も非常に高温なため、耐火耐熱グローブを着用のうえ火傷に十分注意してください。グローブを着用していても耐熱温度を超えると非常に危険なため、冷えた状態で移動・撤収をしてください。

ストーブ内の灰や炭は必ず鎮火させううえで、各自治体で定められた分別方法にて廃棄してください。設営場所に放棄した場合、炭の再発火から山火事に繋がる恐れがあります。また自然界の土壌に運ることはないため、必ずお持ち帰りください。

<設置地について>

設置地を選ぶ際は、周辺環境に配慮し天候の急変にも対応できるよう注意してください。延焼するものが周囲に無く、河川の増水や氾濫にも対応できるか、危険動物は周囲にいないかなど、身の安全を確保して使用してください。

テントサウナの設置前に、テントサウナの設置が、自治体やキャンプ場の規則に反していないか確認し、許可された場所で使用してください。また、管理者が存在する場合には、実施の同意を得ておく他、火災・傷害等の緊急事態が発生した際の連絡先を確認してください。

■注意事項

<本製品全般に関すること>

ご使用前は必ず試し張りを行い、付属品や設置手順をご確認ください。

お子様だけの使用はお控えいただき、必ず安全管理が可能な大人が付き添い使用してください。

定員以上の人数でテントサウナに入らないでください。倒壊・怪我・火災の恐れがあります。

イベントなど、多人数が集まる催しにおいて本製品を使用する場合は、防火担当者を定め、消防署へ事前に届出のもと、本書と併せて定めを遵守し安全な運営を行ってください。

<ストーブについて>

ストーブの天板の上は高温になります。耐熱性のない物、重たい物はのせないでください。

火の取扱いは、必ず耐熱耐火グローブを着用してください。燃焼時は、ストーブ本体に触らないでください。

材質上、熱膨張によりストーブの天板やサイドパネル、煙突、ガラス窓等が必ず変形しますが、過度な燃焼の場合、破損に繋がる恐れがあります。

※燃焼中、また冷えるまではガラス窓に水をかけたり濡れたタオルで拭いたりしないでください。ガラスが割れる危険性があります。

ストーブの燃料はよく乾燥した薪のみご使用ください。石炭や練炭、豆炭等の熱源はストーブの故障の原因、また一酸化炭素中毒の恐れがあります。

テントの中で、火のついた薪や炭をストーブから取り出さないようにしてください。火災の原因になります。

撤収は、完全に消火しており、ストーブ本体・煙突が確実に冷たくなったことを確認してから行ってください。

消火のために、ストーブや炉内に水を掛けたりしないでください。火傷や急激な温度変化により事故や破損の恐れがあります。

<設置場所について>

事前に使用日の気象状況や河川・山などの設置エリアの状況を把握してから使用してください。

人や子どもには十分注意し、他のテントやタープの近くには設置しないでください。

川や海といった水辺で使用する場合は、水害の危険性がないかを十分確認した上で使用してください。河川への入水については、遊泳のルールを確認の上、ライフジャケットの着用等、場所のルールを順守してください。入水が可能な場合は、監視者を最低1名は置いてください。大雨の前後やダムや川などの放流などが想定されるタイミングでは、水辺で使用しないでください。

降雪によりテントサウナの煙突が塞がれる可能性がある場合や、雪の重みでテントサウナが倒壊する可能性がある場合は、テントサウナを使用しないでください。

風を遮るものがない平地や標高が高い場所では、強風によりテントが飛ばされる可能性があるため、強風の危険性がないかを十分確認した上で使用してください。

周囲の自然環境を大切に、木を伐採する等の自然環境を壊す行為はしないでください。

<体調について>

使用中に万が一気分が悪くなった場合は、直ちに使用を中止してください。

体調や気分が優れない方、アルコールを摂取している方、乳幼児、妊娠中の方は入浴をおやめください。

病気や怪我の治療中・療養中の方や、薬を服用中の方は、必ず医師にご相談の上、入浴ください。サウナ利用を医師から禁止されている方は、入浴しないでください。

めがね、時計、宝石類や着衣の付属品（金属）は火傷の原因になることがあります。必ず外してから、ご入浴ください。

< 同梱品と仕様 >

■テント



- 1.テント生地 / 2.テント収納バッグ / 3.テントポール×2本 / 4.ドアポール×1本 /
5.ポール収納袋

■ストーブ



- 1.ストーブ / 2.ストーブバッグ / 3.ガラス窓 / 4.ガラス窓留め具 / 5.灰受けトレイ /
6.スパークアレスター / 7.煙突(A型)×1本 / 8.煙突(B型)×1本 / 9.煙突(C型)×5本 /
10.火かき棒

■仕様

<テント>

サイズ(収納時)	60cm×30cm×30cm
サイズ(設営時)	188cm×188cm×190cm(中央の高さ)
重量	6kg
テント構造	3層構造 オックスフォード×インサレーション×オックスフォード オックスフォード：240D、耐水性は2000PU以上
テントポール	アルミニウム合金D16T：直径13mm
ドアポール	アルミニウム合金D16T：直径10mm

<ストーブ>

サイズ	615mm×280mm×475mm
重量	19kg
材質	特殊耐熱ステンレス鋼：耐熱ガラス



< 製品の特長 >

■テントについて



- ①テントポールは丈夫なアルミニウム合金D16Tできています。
- ②ポールスリーブの末端や、ガイロープを結わえる箇所は生地が補強されており頑丈な仕上がりになっています。
- ③テントにはペグダウン用グロメット、ガイロープ用フックが施されており、その場に応じた柔軟な設営が可能です。
- ④幕内と外との入退室をスムーズに誘う半自動式スイングドアを採用し、しゃがんでジッパーを開閉しなくてよいため、容易に入退室が可能です。
- ⑤地面から10センチの高さに入り口扉をつけることで、地面からの風の吹上を防ぐなど、隙間風を入れない防風対策が施されています。
- ⑥テントは3枚生地で、高密度高断熱の素材を使用しているため、外の冷気を遮断します。また、外装・内装ともに濃いグレー地を採用し、太陽光の吸収と蓄熱性に長けており、室内を高温に保ちつつ、幕内を薄暗く演出します。
- ⑦幕内の壁面には、フルメッシュポケットがあり、タオルや小物を収納することが可能です。

■ストーブについて



- ① ステンレス素材を採用しており、熱伝導率が高く、丈夫で耐久性があります。
- ② 市販の太薪（30-40cmサイズ）が入ります。
- ③ 炎が見える耐熱ガラス窓を採用し、火加減を確認することが可能です。
- ④ 本体の脚はワンタッチ開閉式のため、かさばらずに収納が可能です。
- ⑤ 片付け時には、付属する煙突類を全て炉内に収納することが可能です。



GEOTHERMA

< 組立手順 >

■組立に必要な道具

- ご自身で準備いただくもの
- ガイロープ(スターターキット同梱品)
- ペグ(スターターキット同梱品)
- 作業用手袋
- ペグハンマー(プラスチックを除く)

■設営前事前チェック

- 同梱品に不足・破損はないか
- 設置に必要なペグやガイロープはあるか
- ストープの清掃はできているか
- 設置場所はテントサウナが許可されているか
- 設置場所は平坦で遮蔽物等はないか
- 周囲に延焼の危険がある建物や樹木等はないか
- 突風により飛ばされない立地であるか
- 周囲に危険な植物や生物はいないか
- 風の向きは確認できているか
- 水害の危険性はないか
- 周囲の人間や自然に悪影響はないか

■設営動画

実際に設営に取り掛かる前に右のQRコードを読み取り以下の2つの動画をご覧ください。

【テント設営動画】 【ストープ設営動画】



■設営手順：テント1/3

①テント収納バッグからテント生地、ポール3本を出し地面に広げます。

広げた際にポールスリーブのファスナーは全て開けておきます。

※風が強いときは、風上側の2点をペグダウンすると設置がスムーズです。

②2本のテントポール、1本のドアポールをショックコードの継ぎ目に沿って差し込みのうえ、奥までしっかりと差し込み、つなぎ合わせます。

③テントの四隅にあるポールポケットに、2本のテントポールを対角に交差するよう差し込みます。交差する頂点部分の下側にくるポールは、上側のポールジッパーの下部に潜り込ませてください。



■設営手順：テント2/3

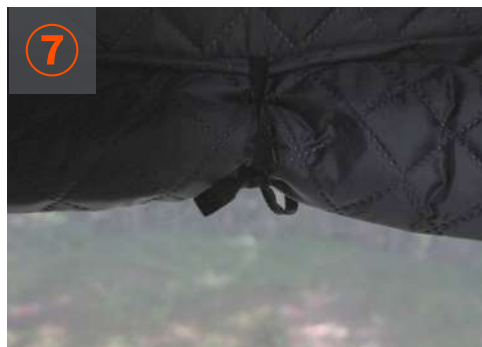
④テントポールをポールポケットに差し込んだ後は、テント生地とファスナーが噛まないように、慎重にファスナーを閉めてください。テンションがかかり閉めづらい箇所は、テント生地を縦横に伸ばしてから、ゆっくりと閉めてください。

⑤2本のテントポールが、ポールポケットに完全に入っているか、ファスナーが全て閉まっているかを確認します。

⑥テントが立ち上がった後、四隅にペグを打ち込んで固定します。

※風が強いときは、①の時点でペグダウンを実施してください。

⑦テント内側の窓を開けます。下部からクルクルと巻いて、上部にある収納用紐で留めます。



■設営手順：テント3/3

⑧テント上部にあるストーブ煙突穴開口部のカバーを巻き上げて、閉じないように収納用紐で結びます。

※カバーが煙突に触れないよう、固く結びましょう。

⑨テント下部にある換気口を開けます。下部からクルクルと巻いて、上部にある収納用紐で留めます。

⑩ドアポールを取り付けます。

ドアポールの先端をドア中腹にあるスリーブへ上から差し込みます。ポールの先端が扉下部のポールポケットに達していることを確認します。

その後は、ポール全体を湾曲させながら先端を、上側のポールポケットに差し込んでください。

※ポールポケット全体にポールが入るように、ゆっくりと力を入れながら差し込むとスムーズに収めることが可能です。



■設営手順：ストーブ1/4

- ①ストーブの表面に付いているビニール保護シートを、全て剥がします。
※剥がす際は、スクレイパーやカッターの刃先等で、必ず全て除去してください。
残っていると、火入れ後に溶けてストーブに固着します。
- ②ストーブ炉内に収納されている煙突7本・スパークアレスター・火かき棒を取り出します。また、ストーブ下部の灰受けトレイを引き出し、ガラス窓とガラス窓留め具を取り出します。
- ③ストーブの脚を4か所引き出してください。引き出す際は真鍮色の突起ボタンを押しながら行います。
- ④スパークアレスターをストーブ煙突差込口に設置します。
金属部が立体交差する側を上向きにしましょう。



■設営手順：ストーブ2/4

⑤煙突を組み立てます。A型1本・B型1本・C型5本を使用します。

(1)B型をストーブ煙突接続部の凹に差し込みます。

※煙突が内側に絞られている方を凹に差し込みます。

(2)A型をB型の上から被せます。

A型はスリットが入っている側を上向きにします。

(3)C型を2本連結し、B型に差し込みます。C型3本は⑩で利用します。

全ての煙突は煙突製造時に発生した圧着部分が一直線になるように微調整してください。P15の※の写真参照

※圧着部分が一直線になっていないと、接続時に砂を噛んだり、燃烧時の湾曲や膨張などの影響で外せなくなることがあります。

※接続した煙突が上記順序で接続されており、正しく接続されているか確認します。



■設営手順：ストーブ3/4

⑥ストーブは、テント内の煙突開口部の真下に置き、ストーブの薪投入口がテントの入口側に向くようにし、⑤で設置した煙突がテントの煙突穴から出るように設置します。

※この時点で無理にストーブをテント生地から離す必要はありませんが、燃焼時は最低30cm以上離すようにします。テント側面に結わえるガイロープを調節し、テントをピンと張ることでストーブとの距離を取りましょう。

⑦取り出した灰受けトレイを、ストーブ下部に差し込みます。

⑧ガラス窓を、ストーブ開口部に取り付けます。

ガラス窓留め具を、ストーブ側の穴と窓側の穴に貫通するように差し込んでください。その際、金属棒は先端が平らになっている方が天井を向くようにします。



GEOTHERMA

■設営手順：ストーブ4/4

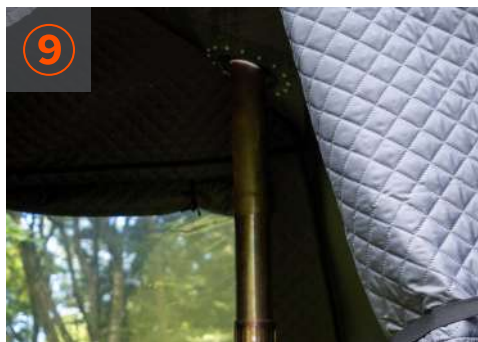
⑨で接続した煙突が、テント上部のストーブ煙突穴開口部に真っ直ぐ入っていることを確認します。

⑩残り3本のC型を連結します。

⑪テント上部から出ている煙突と⑩の煙突を連結します。

※全ての煙突は煙突製造時に発生した圧着部分が一直線になるように微調整してください。P16の※の写真参照

⑫テント内外から見て、ストーブと煙突が一直線になるように微調整します。煙突が湾曲していたり、ストーブが傾いていないか、ストーブの脚が確実に地面に接地できているか、最終確認をします。

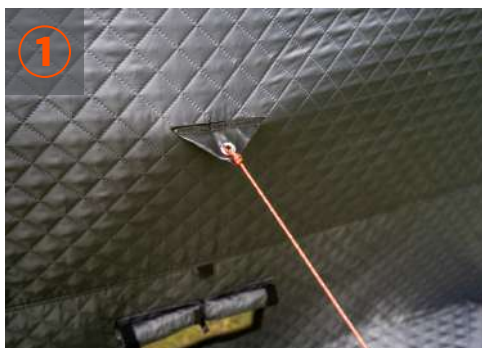


■テント・ストーブの設置・固定

①テント生地の全方面に付いているガイロープ用の耳部分にロープを結わえ、ペグダウンを行ってください。

天候に関係なく、全箇所ガイロープを結わえ、ペグダウンを行ってください。

②テント内のストーブから、テント生地が30cm以上離れているかどうか確認します。張りが弱い時は①作業時のロープを調整してください。



■最終確認

Check 確認項目

<input type="checkbox"/>	テントはゆがみが無く、傾いていないか
<input type="checkbox"/>	ペグはしっかりと地面に刺さっているか ガイロープは緩みが無くピンと張れているか
<input type="checkbox"/>	ストーブの保護シートは除去できているか ※灰受けトレイ・ガラス窓も含む
<input type="checkbox"/>	ストーブは4本の脚が出ていて、ぐらつきがないか
<input type="checkbox"/>	煙突はしっかりと差し込みできているか スパークアレスターは指定位置に設置済みであるか
<input type="checkbox"/>	ガラス窓は、留め具の差し込みができているか 留め具の差し込み向きは間違っていないか
<input type="checkbox"/>	テント生地とストーブの間は30cm以上あいているか
<input type="checkbox"/>	煙突最上部付近に延焼対象物はないか
<input type="checkbox"/>	ストーブ設置床面に燃え移るものはないか
<input type="checkbox"/>	テントの換気口を塞ぐような物はないか
<input type="checkbox"/>	煙突内は空っぽで遮蔽物はないか

< 燃 焼 手 順 >

■ 燃 焼 に 必 要 な 道 具

-以下の道具は全てご自身で、ご準備ください。

- 着火剤
- ライターやマッチ等の着火道具
- 焚きつけ用の細枝
- 燃焼用の薪(長さ40cm以内。針葉樹と広葉樹をバランスよく)
- 薪ばさみ
- 灰スコップ
- 火消しつぼ
- 消火用バケツ
- 耐熱耐火グローブ

■ ガラス窓の開閉方法

- ① ガラス窓の取っ手をつかみ、ガラス窓を少し上に持ち上げる。
- ② ガラス窓を上を持ち上げた状態で手前に引くことで扉が開きます。



■ストーブの焚き方

①焚きつけの準備

ガラス窓を開き、炉内中央部に細く燃えやすい焚きつけ用の細枝を空気が通りやすい用に隙間を作りながら投入します。

②着火

着火剤などを使って焚きつけ用の細枝に火を付けたら、ガラス窓を閉じロックをかけてください。

③空気の調整

火の勢いが安定するまでは、灰受けトレイを少しだけ手前に引き、空気を炉内に送ります。

④薪の投入

燃烧の様子を確認し、更に炉内へ燃烧用の薪を2-3本投入します。灰受けトレイを使って空気量を調節してください。全体的に火が回ってきた段階で、灰受けトレイをストーブ最奥まで差し込みます。火力が落ちないように、薪は少量ずつ投入し、空気の通り道を塞がないようにしてください。

⑤火力の維持

追加した薪の燃烧が安定してきたら、薪を追加していき、熾き（おき）※1を作っていきます。熾きが溜まれば、安定した燃烧となるため、火を育てるように丁寧に薪を投入しましょう。

※1.熾き・・・薪が炭火のようになり炎を出さずに燃えている状態。



< 入浴手順 >

※このページに記載の道具は全てご自身で、ご準備ください。

■入浴に必要な道具

- タオル
- 水着
- サンダル
- 水分補給用のドリンク
- テント内の着座用ベンチ
- 消火用の水が入ったバケツ

■ロウリュに必要な道具

- ケトルや柄杓
- 水桶

■入浴を楽しむ補助道具

- 温湿度計
- 照明
- アロマオイル

■サウナの温度管理

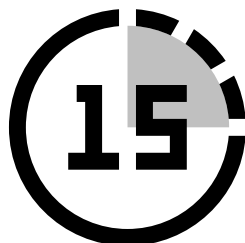
テントの室温は、当日の外気温や標高、気圧、風速、設置場所などの様々な外的要因に左右されます。また、ストーブの熱量も大きく影響するため、高品質な薪の使用が重要です。

入浴中に足元が冷える場合は、冷たい外気がテントと地面の隙間から流入している可能性があるため、テントスカート部分に砂や石、木材など重しを置いて気密性を高めてください。

※換気口前は絶対に塞がないでください。

■入浴方法

- ①身支度を整えてからテントに入り、ドアを閉めてベンチ等に座ります。
- ②身体を慣らすために、初めは汗が出てきたら一旦外に出て、水分を取りながら脈が落ち着くまで身体を休ませてください。
- ③その後は徐々に入浴時間を長くしていきますが、無理をせず、長くとも15分程度にとどめ、次の入浴までの間には必ず水分補給とともに、脈が落ち着くまで十分な休憩をとってください。



■ロウリュの方法

本製品では、ストーブの両側スリットへ水をかけて高温の蒸気を発生させることが可能です。蒸気を浴びて発汗作用を促進させる入浴方法ですが、過度な水かけは、室内の温度低下や、瞬間的に高温の蒸気が噴出し火傷の恐れがあります。また故障の原因となるので控えて下さい。

※ロウリュを行う際は、不純物が入っていない水を使用してください。泥水や海水などは使用しないでください。



< 消火手順 >

■消火方法

- ①消火は、ガラス窓・灰受けトレイを完全に閉じたまま、炉内の薪や炭が自然に燃え尽きるまでお待ちください。
- ②スムーズな撤収に繋げるためには、予め撤収時間を決めて消火準備をすることが重要です。薪の投入タイミングや投入量を調整することで、消火が簡単に行えます。
※完全な消火、またストーブが冷却されるまでに、最低でも1～2時間は必要です。

< 撤収手順 >

■ストーブの撤収

※ストーブが完全に冷却された状態で行ってください。

- ①全てのパーツが冷えた状態で、組立と逆の手順で解体します。
- ②灰や炭などの燃え残りがあった場合は、テント内で処理せずストーブを安全な場所に移動させてから処理します。炉内の燃え残りは、同梱品の火かき棒や、ご自身でご準備いただく灰スコップを用いて取り出します。灰受けトレイを引き出し、溜まった灰も除去します。
- ③煙突掃除キットを用いて、煙突内の煤(すす)を丁寧に除去します。
煤が残っていると水分を含んだタールが固着し、次の燃焼時に燃え移り、火災の恐れがあります。煙突を長く使用するためにも都度清掃を行ってください。
- ④4本の脚を収納し、煙突・スパークアレスター・火かき棒・煙突掃除キットを炉内に収納します。ガラス窓とガラス窓留め具は、灰受けトレイに収納することが可能です。
※ガラスが割れないよう布などで包み収納してください。
- ⑤付属のストーブ収納バッグに収納します。

■テントの撤収

- ①ストーブの撤収完了後に、組立と逆の手順で解体します。
テント内部ビニール窓・換気口・煙突開口部を閉じ、ドアポールを外し、2本のテントポールを外します。
- ②テント生地やビニール窓に付着する砂利や植物等の草葉などを取り払い、生地に水分が残っていれば布等で拭き取ります。
- ③風の吹いているときは風下側からペグを抜き、ガイロープを外します。テントが飛ばされないようご注意ください。
- ④テントをたたみ、ポールとペグ、ガイロープの本数を確認し、ポール収納袋、テント収納バッグにそれぞれ収納してください。
※畳むときは、煙突開口部の金属板が折れ曲がらないよう注意してください。



<メンテナンス>

■テント

テントは洗濯機やドライクリーニングの使用はしないでください。生地劣化や色落ちの原因になります。

使用後は、泥や煤などの汚れを、柔らかなスポンジなどを使って、水で洗い落とすか、濡れたタオルで拭き取り、陰干しでしっかり乾燥させてから保管してください。

汚れや水分が付着したまま保管すると、臭い、カビの発生や生地劣化の原因となります。

長期間の使用に伴い、テントの撥水効果が低下した場合は、市販の撥水剤をご購入いただき、取扱説明書の指示に従い、屋外で塗布してください。

ファスナーのすべりが悪くなった場合は、市販の潤滑油かロウソクのロウをブラシで塗布してください。

■ストーブ

ストーブは、ご使用後に必ずストーブの炉内および煙突内部の煤や燃え残りなどを、ブラシ等を使って除去してください。

水で洗う場合は柔らかなスポンジなどを使い、洗浄後はしっかり乾燥させてください。水分が残っていると、錆発生の原因となります。

燃焼による金属の変色は正常な変化です。金属磨き剤の使用や、ヤスリやペーパーがけは行なわないでください。

メンテナンスにあわせて、ストーブと煙突に亀裂や穴あきなどが点検し、破損が認められた場合は使用を中止してください。

< 保管 >

メンテナンス後は、高温多湿の場所を避け、お子様の手の届かない場所で保管してください。

ストープが変形するので、上に物をのせないでください。

長期間保管した後にテントを使用する場合は、一度風通しが良い場所で陰干しをすると湿り気が消えて、気になる匂いも軽減されます。

テントの常設は、紫外線等による劣化を早める原因となりますので、おやめください。

< アフターサービス >

■初期不良について

商品の品質には万全を期しておりますが、万が一不具合がございましたら、お買い求めの販売店、もしくは公式ウェブサイトを通じてご用命ください。

弊社で内容もしくは商品を確認後、無償修理もしくは交換いたします。

使用後の交換はお受けできない場合がございますので、必ず到着後に一度、商品の確認をお願いいたします。

サービスをお受けいただく場合には、販売店でのご購入を証明するものが必要となりますので、ご購入時のレシートは大切に保管してください。その他お気づきの点がございましたら、公式ウェブサイトからメールにてお問い合わせください。

■使用による不具合について

商品の使用による故障や不具合等は、お買い求めの販売店、もしくは公式ウェブサイトを通じてご連絡ください。

その他お気づきの点がございましたら、公式ウェブサイトからメールにてお問い合わせください。

G E O T H E R M A

公式ウェブサイト



<https://geotherma.jp/>

設営動画



SNS(Instagram)



G E O T H E R M A . T E N T S A U N A

https://www.instagram.com/geotherma_tentsauna